

## 民泊体験プロジェクトを通して

今回のゼミ合宿の横須賀西海岸体験たびで、昼食づくりや民泊体験を通し、普段の大学生活では味わえない様々な経験をすることができました。

まず、昼食づくりではゼミの多くの学生が実家暮らしで普段自炊をしないために慣れない手つきで野菜を切ったりアジのフライを揚げたりしました。横須賀でとれた新鮮な野菜とアジはとてもおいしく、また、自分たちで苦労して作った料理はまた一段とおいしく感じられました。

凧作りと凧あげでは自分たちが昔に戻って遊んでいる気分になりました。ソレイユの丘の広場で凧をもって走っているみんなの姿はまるで小学生時代を思い出したように無邪気でした。

民泊体験では受け入れてくださった方の温かさを感じることができました。実家のような温かさで、第二のおばあちゃんとして接してくださいました。おいしいごはんやふかふかのベッドを用意していただき、まさに至れり尽くせりでした。特に印象に残っているのが、夕食に食べたわかめのしゃぶしゃぶです。生で食べられるわかめはこの時期の1~2週間しか採れないそうで、とてもラッキーだねと食べさせてくださいました。だしにつけた瞬間に鮮やかな色に変わり、コリコリとした食感でとてもおいしかったです。

横須賀西海岸体験たびの体験型民泊は私たちのゼミの大きなテーマでもある地域活性化の方法の一つでもあります。観光資源に乏しく農漁業が中心で少子高齢化が進んでいる市町村でも、人々の温かさや地元の新鮮な食材などの魅力を知ってもらうためにはとてもいい取り組みであると感じました。

しかし、少子高齢化が進む市町村では受け入れ家庭が不足しているという新しい問題点があることも学びました。実際、高齢を理由に受け入れ家庭から引退した方々ともお話をさせていただきました。普段は中学生や外国の学生を多く受け入れているためにかんがいの体力が必要であると思います。少子高齢化が進む地域で民泊体験プロジェクトをさらに発展させていくためには、外の地域から人を呼び込み、受け入れ家庭側の良さも発信していく必要があると感じました。

今回のゼミ合宿を通して、人々の温かさを感じるとともに、地域活性化についてより深く考えることができました。